

平成 30 年 5 月 14 日

保 育 課

第 6 回 三者協議会 要点録

1 日時・場所

平成 30 年 4 月 17 日（火）午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分 豊田保育園

2 出席者

子ども部長 篠崎 保育課長 中田 係長 石原

豊田保育園園長 馬宮

豊田保育園保護者会 前田、岩波、渡辺、山崎、大山、

古屋、宮澤、鈴木、吉澤×2 名 全 10 名

3 配布資料

なし

4 要点録

（引継ぎに係る保育士派遣期間の短縮について）

（1）これまでの取り組みについて

中田保育課長から、とよだ保育園の民営化に係るこれまでの取り組み等を報告

- ・始めに、出向期間の短縮について、4 月の民営化前に提示し、進め方についてお叱りを受けたことを反省している。
- ・改めてこれまでの取り組みを振り返り、4 月に入ってから状況についてお伝えさせていただく。
- ・これまでガイドラインを踏まえ、課題を 1 つ 1 つ達成してきた。
- ・例えば、民営化前の合同保育期間について、ガイドラインでは 6 か月前から週 3 日以上配置することと規定されているが、円滑な移行が進むよう、ねぐるみ会からの申し出により 1 年前から週 5 日体制とすることとして、より充実して実施してきた。
- ・また、市として最重要課題であった園長、副園長人事については、継続が決定した。
- ・さらに、保育士の経験年数も 5 年以上の経験者を 1/3 以上配置することを条件としているが、ねぐるみ会において、計画的に保育士採用を進め、合同保育に入った保育士 4 人全員が 5 年以上の経験を持つ保育士を配置することができた。
- ・保育方針や年間行事なども公立で行ってきたものをしっかり引継ぐことができた。
- ・また園舎完成後には、子どもたちが早めに環境に馴れるよう、前向きになれるよう、事前に園舎や園庭の見学なども日常の保育に織り交ぜながら行ってきた。
- ・こうした 1 年間の取り組みに加え、昨年 11 月頃には、臨時職員を含めた職員体制がほぼ従来の体制のまま移行できる目途が立ち、移行後も子どもたちに大きなストレスをかけずに、安定した運営が実現できる見通しをもって 4 月を迎えることができた。

- ・4月に入ってから、子どもの生活の様子、担任保育士の保育状況、保護者との関係、園全体の運営状況を拝見し、順調に保育が進んでいる様子を確認している。

(2) 民営化後の園の様子について

馬宮園長から、現在の園の様子が報告された。

- 5歳児**・3月から園舎の見学などを散歩に組み込んだ。自分のマークを見つけ、安心していった。
 - ・4月に入り子どもたちの緊張感があったが、慣れは早かった。
- 4歳児**・3月から新園舎への散歩を通じ、新しい環境に期待をもって移行する事が出来た。
 - ・4月に入り、不安感は見られたものの、クラスとしては動き始めている。
- 3歳児**・園舎移転にかかわらず、乳児から幼児クラスになり環境の変化が大きい年齢である。
 - ・最初は新入児につられ、進級児の一部も泣いていたが、体を動かすことでストレスを発散し、落ち着いていった。
 - ・先生の話聞き、馴染もうとする様子が見られた。慣れてくることで、色々なものを発見し、楽しむ姿も見られている。
- 2歳児**・進級児全員+新入児3名のクラスでは、新入児も含め生活のリズムが完成しており、安定して過ごしている。
 - ・新入児のみのクラスでは、現段階ではまだ落ち着いていないが、日々新しい生活環境に慣れてきており、いずれ解消される。
 - ・通常においてもクラスが落ち着き、慣れてくるには2か月ほどかかるため、新人のみのクラスの方が大変かもしれない。
- 1歳児**・2クラス構成(子ども:8人+8人、先生:2人+2人)
 - ・芝原保育園だった先生が保育にあっている。
 - ・若い先生は、とよだ保育園での経験が少しでもある先生とは少し方向性が違う、自分たちのやり方を持っている。いきなり同じ方向性とはいかないので、これから同じ方向を向けるように取り組んでいく。
- 保育士**・2~5歳児共通で、全クラスねぐるみ会の保育士がリーダーとしてそれぞれ保育にあっている。市から派遣している保育士については、それぞれフォロー役に徹している。
 - ・新園舎に決定的な欠陥はない。気づいた部分は理事長に随時対応依頼している。保育士も自ら考え、工夫している。

(3) 保護者からの主な意見、質問

(意見) 保護者会としては「派遣期間を4月末までに短縮」には反対の立場である。民営化後の検証は具体的に実施してほしい。それを踏まえて派遣期間短縮を考えるべき。

(回答) 4月から保育課に配属されたコンシェルジュ(公立園長経験者)を派遣し、園の様子の確認や保育士からのヒアリングなどを実施している。細かい考え方のすりあわせをする必要はあると思うが、おおむね子どもたちは安定しているように見える。順調に保育が進んでいる様子を確認している。(市)

(質問) 子どもの様子に変わりはなく、馬宮園長の話からも、今後、園の状況が安定していくことが見込まれる。となると、派遣期間はいつ時点での終了を考えているか。

(回答) GW を挟むことで、長期連休明けで生活リズムが戻るお子さまもいる事を考慮し、市としては、リズムが安定する 5 月中旬以降を派遣期間の終了時期として改めて提案したい。(市)

(質問) 4 月以降の新体制での問題点はあるか(ハード、ソフト面)。

(回答) 新園舎に決定的な欠陥はない。気づいた部分は理事長に随時対応依頼している。保育士も自ら考え、工夫している。(ねぐるみ会)

(意見) 派遣期間終了後にはどうしても不安が残る。

- 1 年を通じてでないといけないこともある。
- 派遣職員が継続することでのデメリットはあるか?
- 混乱がある中で、あえて切り替えてしまった方が得策なのか?
- 派遣の 4 名が気持ちよく働ける環境での保育が理想。 など

(回答) ねぐるみ会豊田保育園としての運営の自立を第一に、派遣職員 4 名にはフォロー役を依頼している。職員の間人間関係で問題があるかどうかについては、それ以前のところで、まだ引き継ぎで精いっぱいの状態。出向の先生の不安などに関しては、毎日忙しいため、そこに触れるでもなく日常があわただしく過ぎてしまっている。(ねぐるみ会)

(意見) 通常落ち着くのが 5 月中旬だとしたら、「移転」「新園開設」という変化要因があったとしたらもう少し時間がかかるのでは? 合同保育を続けることでの何かネガティブな弊害が特にないのであれば、保護者としては現状のいい状態をそのままキープしてほしい。少なくとも当初決めたルールであれば 1 年なので。

(意見) ガイドラインを一言一句すべて守れとまでは言わないが、子どもを預ける保護者としては不安があるので、安心できる要素がほしい。

(回答) 先ほど紹介したコンシェルジュ(公立園長経験者)は、公立保育園の民営化も経験し、現在の状況を一番よく理解しており、その立場として豊田保育園での検証を行っている。(市)

(意見) 派遣期間の終了時期があいまいな状況を作ったことは、4 名の派遣職員にも影響することであり、日野市としての 4 名の派遣職員への配慮不足ではないか。やはり 1 年間いてほしいという気持ちが強いが、素晴らしい保育士なので、新たな職場でも頑張ってもらいたいという応援したい気持ちもある。

(質問) 市から派遣職員に対して、派遣の際にどのような説明をしているのか(1 年間派遣される認識で来ているのか? きちんと 1 年というお願いが市からできていたのか?)

(回答) 「保育(園の運営)が落ち着き次第、派遣が解消される。うまくいけば 4 月末で

終了。」という説明。(市)

(意見) ガイドライン上定められる民営化後の派遣期間は1年間であり、短縮は三者協議会における協議でしか決定できないこととなっている。にもかかわらず、派遣職員に対してそれらの状況が説明されていないことが、あいまいな状況を作っているのではないか。

(質問) 新園の様子を報告を聞くと、4名の派遣職員のバックアップありきの結果であり、その4名が抜けた後、残りの先生たちだけで園が回しきれるのか不安。

(回答) 昨年のねぐるみ会からの出向者は、来年(つまり2018年度)引き継ぐという形でやる気が出る立場だったと思う。今の市からの出向者は引いていくなかでモチベーションを保つのは難しいのかなとも思う。その反面、出向者がいなくなって大丈夫とはまだ言えない。明確な時期があったほうがモチベーションも下がらずいい引き継ぎになるかもしれない(ねぐるみ会)

(意見) 確かに保育士のモチベーションの問題はあるが、現場で子供たちの前ではそれは出すべきではないこと。子供を第一に考えて欲しい。

(4) 今後の意見調整方法について

- 市から新たな案を4月中に提示するので、それを改めて検討していただきたい。(市)
- 派遣期間終了後のフォロー体制を明確にし、保護者の皆様が安心できる内容とする。(市)
- 短縮については具体的な案を伝えて欲しい。いつ・どういうプランになるか。役員会は決定機関ではないので、承認の期間を加味して欲しい。(保護者会)
- ねぐるみ会の先生たちは、市の職員がいなくなっても大丈夫なのかということもできれば聞きたい。時間があるのなら説明会をやっていただくのが望ましい。(保護者会)